

平成23年

第12回教育委員会会議録

秋田県教育委員会

## 平成23年第12回教育委員会会議録

1 期 日 平成23年6月9日 木曜日

2 場 所 秋田高等学校図書室

3 開 会 午後2時00分

4 閉 会 午後3時10分

5 出席委員 北林真知子

猪股春夫

田中直美

長岐和行

佐藤一成

米田進

6 説明のための出席者

教育長 米田進

教育次長 白山雅彦

参事(兼)高校教育課長 福田世喜

総務課長 佐々木則夫

義務教育課長 橋田裕

生涯学習課長 小川秀昭

保健体育課長 小野巧

7 会議に附した議案

議案第25号 秋田県産業教育審議会委員の任命について

議案第26号 秋田県立博物館協議会委員の任命について

8 議決した事項

議案第25号 秋田県産業教育審議会委員の任命について

議案第26号 秋田県立博物館協議会委員の任命について

9 報告事項

- ・大館地区統合高等学校及び県北地区定時制基幹校の設置場所について
- ・湯沢翔北高等学校専攻科について
- ・平成24年度秋田県公立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針について
- ・平成24年度秋田県立中学校入学者選抜適性検査問題等作成方針について
- ・平成23年度秋田県立秋田明德館高等学校、横手高等学校定時制課程10月入学生募集要項について
- ・平成23年度全国高等学校総合体育大会カウントダウンイベントIN秋田について

10 会議の要旨

### 【北林委員長】

ただ今より平成23年第12回教育委員会会議を開催します。

会議録署名員は2番田中委員と4番佐藤委員にお願いいたします。

始めに、議案第25号「秋田県産業教育審議会委員の任命について」高校教育課長から説明をお願いいたします。

【参事(兼)高校教育課長】

議案第25号「秋田県産業教育審議会委員の任命について」説明

【北林委員長】

議案第25号について説明していただきましたが質疑等ございませんか。

【猪股委員】

女性委員が産業経済関係者に偏っていますが、全ての分野に行き渡るように配慮することは出来ないのでしょうか。

【参事(兼)高校教育課長】

行政関係者及び教育関係者についてはいわゆるあて職の委員ですが、学識経験者について女性で適任の方がいらっしゃらないか課題意識をもって臨みたいと考えています。

【佐藤委員】

昨年度は審議会の出席者が少なかったと記憶していますので、今年は出席が増えるよう配慮してください。

【参事(兼)高校教育課長】

昨年度の反省を踏まえ、十分に日程調整が出来るよう開催日を7月から10月に変更して対応しております。

【田中委員】

あて職の委員の役職は常に固定されているのでしょうか。

【参事(兼)高校教育課長】

行政はある程度対応するポストが決まっておりますし、教育関係者も農業部会と工業部会の方が委員となっております。教育関係者では商業部会もあるため、その方を入れるかどうかは検討の余地がございます。

【北林委員長】

産業経済関係者の割合は決まっておりますか。

【参事(兼)高校教育課長】

全体で15名以内とすることは決まっておりますが、分野ごとの人数は決まっておりません。

【北林委員長】

産業経済関係の委員が多くいらっしゃっても、会議に出席できなければご意見を反映させることが出来ません。具体的な部分についてはお任せしますが、事前に産業教育に熱心な方かどうか

を見極めていただきたいと思います。

また、より審議を活発にさせていただきたいと思っているのですが、資料は事前にお送りしているのでしょうか。

【参事(兼)高校教育課長】

はい、送っております。

【北林委員長】

どのような資料ですか。

【参事(兼)高校教育課長】

当日配布する資料や協議議題などです。

【北林委員長】

昨年度は何を話していいのかわからないという委員もいらっしゃったので、事前に発言例を示すなど、ガイダンスの工夫をしていただきたいと思います。また、三井住友フィナンシャルグループがまとめた「企業が産業界に期待すること」というアンケート結果も出ていますので、そういう資料を送付しても良いのではないのでしょうか。

【参事(兼)高校教育課長】

資料は事前を送付しているものの、資料に関するレクチャーが不足していた感もありますので、踏み込んだ取組を行ってまいります。

【北林委員長】

他になれば、表決を採ってよろしいでしょうか。

【全委員】

異議なし。

【北林委員長】

それでは、表決を採ります。議案第25号を原案どおり可決することによろしいでしょうか。

【全委員】

異議なし。

【北林委員長】

では、議案第25号を原案どおり可決します。

次に、議案第26号「秋田県立博物館協議会委員の任命について」生涯学習課長から説明をお願いします。

【生涯学習課長】

議案第26号「秋田県立博物館協議会委員の任命について」説明

**【北林委員長】**

議案第26号について説明していただきましたが質疑等ございませんか。

**【佐藤委員】**

博物館協議会は年に何回活動していて、どのような答申を行うのでしょうか。

**【生涯学習課長】**

通常は年2回開催しており、今年度は8月と3月に開催予定です。審議の内容は博物館の活用方法についてご意見をいただいております。

昨年度は男鹿南秋潟上の生徒へ夏休み中のパンフレットを配布したことは評価できるが、より遠方の生徒にもPRした方が良くはないかというご意見を受け、パンフレットを全県の学校等へ送付することといたしました。

また、他館と連携した展示を推進すべきとのご意見を受け、能代のエナジウムパークや大潟村の干拓博物館との連携を検討中です。

**【猪股委員】**

公募委員と共同公募委員の違いは何でしょうか。

**【生涯学習課長】**

共同公募は他の審議会など一括して県の総務課が公募を行う仕組みで、これにより1名の方が応募されました。博物館協議会委員の公募委員枠は3名分ありましたので、残り2名については博物館が独自に募集しました。

**【総務課長】**

公募委員により県民の方の意見を入れることが望ましいという観点から、様々な審議会等を一括して募集しております。

**【北林委員長】**

共同公募で定員が満たない場合、独自の募集を行うというのが通常のやり方なのでしょうか。

**【総務課長】**

独自に行う場合もあれば、欠員として取り扱う場合もあります。博物館については一般の県民の利用を促進するという観点から、欠員とせずに独自に募集を行ったものです。

**【長岐委員】**

公募以外の方の選考基準はどうなっていますか。

**【生涯学習課長】**

公募委員の3名の他、学識経験者2名、教育関係者5名、報道関係者2名と独自に枠を設定しております。公募委員以外の方の選任については各団体から適任者を推薦をいただいております。

**【北林委員長】**

委員の構成をみますと教育関係者、元教育関係者及び報道関係に偏っているように思います。

また、利用者目線から提言をいただくのであれば30～40代の保護者を入れるべきだと思いますし、10年以上の長期にわたって委員を務めている方もいらっしゃるのでは、そのような部分を解消いただくことを希望します。

**【生涯学習課長】**

6期目の小玉さんについては、秋田地域婦人団体連絡協議会から推薦いただいているわけですが、こちらの団体は地域に根ざした団体で、裾野も広く、女性の視点から提言がいただけるということで委員として適任であると認識しております。

**【北林委員長】**

近年協働の観点からNPOの役割が増してきておりますが、推薦団体の中にNPOを含めることも検討いただけないでしょうか。

**【生涯学習課長】**

利用者の視点に立ち、時代を先取りする提言をいただくという意味から、推薦団体についてもより適切な団体はないか検討してまいります。

**【北林委員長】**

他になければ、表決を採ってよろしいでしょうか。

**【全委員】**

異議なし。

**【北林委員長】**

それでは、表決を採ります。

議案第26号を原案どおり可決することよろしいでしょうか。

**【全委員】**

異議なし。

**【北林委員長】**

では、議案第26号を原案どおり可決します。

次に、「大館地区統合高等学校及び県北地区定時制基幹校の設置場所について」及び「湯沢翔北高等学校専攻科について」及び「平成24年度秋田県公立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針について」及び「平成24年度秋田県立中学校入学者選抜適性検査問題等作成方針について」及び「平成23年度秋田県立秋田明德館高等学校、横手高等学校定時制課程10月入学生募集要項について」高校教育課長から説明をお願いします。

**【参事(兼)高校教育課長】**

「大館地区統合高等学校及び県北地区定時制基幹校の設置場所について」

「湯沢翔北高等学校専攻科について」

「平成24年度秋田県公立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針について」

「平成24年度秋田県立中学校入学者選抜適性検査問題等作成方針について」

「平成23年度秋田県立秋田明德館高等学校、横手高等学校定時制課程10月入学生募集要項について」説明

**【北林委員長】**

次に「平成23年度全国高等学校総合体育大会カウントダウンイベントIN秋田について」保健体育課長から説明をお願いします。

**【保健体育課長】**

「平成23年度全国高等学校総合体育大会カウントダウンイベントIN秋田について」説明

**【北林委員長】**

報告事項を一括してご説明いただきましたが、質疑等ありませんか。

**【田中委員】**

大館地区統合校の設置場所について、校舎が旧大館商業高校、グラウンドが大館桂高校の敷地を活用するとのことでしたが、間に交通量の多い道路があることから事故等が起きないか心配しています。何か対策は考えていらっしゃるのでしょうか。

**【参事(兼)高校教育課長】**

大館商業高校の敷地にも陸上競技場程度のグラウンドを整備し、体育の授業は校舎内で出来るようにいたします。野球やサッカーの部活で桂高校の敷地を活用することになりますが、横断歩道の他、地下道が整備されているので差し支えないかと考えております。

**【長岐委員】**

湯沢翔北高校の専攻科について、志願の見込みはどうされていますか。

**【参事(兼)高校教育課長】**

専攻科の設置にあたっては、周辺の就職や志願状況を踏まえて定員を設定しております。介護福祉科については、福祉系の専門学校、短大、大学に進学している生徒が、湯沢北、雄勝地域で20数名、増田、雄物川、西仙北地区でも20数名いることから、地元で専攻科が設置されれば20名程度は応募があるのではないかと見込んでおります。

生産技術科については実習等が多いことから定員を絞って10名としています。

安い授業料で専修学校や短大レベルの技術を身につけられることをアピールし、定員以上に応募してもらえるように努めてまいります。また実績を積むことにより、3年目以降は地元以外からも希望者が出るよう努めてまいります。

**【長岐委員】**

今年度の高校入試の問題作成方針について、昨年度の入学試験は平均点が大幅に下がり前回の教育委員会会議で話題になりました。

そのことを踏まえて今年はどのように問題作成を行うことになるのでしょうか。

**【参事(兼)高校教育課長】**

昨年度の問題の内容と、今回の付属資料を中学校でもしっかりと認識し、それを踏まえた指導を行っていただきたいと考えています。

また、来年は試験時間が5分延長されますが、作問にあたっては昨年度の状況を踏まえてボリュームなどを精査いたします。

**【佐藤委員】**

湯沢翔北高等学校の専攻科について、生産技術科の課程は何年でしょうか。

**【参事(兼)高校教育課長】**

2年間です。

**【佐藤委員】**

そうすると介護福祉科と併せて4クラス必要となるのですね。

**【参事(兼)高校教育課長】**

そのとおりです。

**【佐藤委員】**

介護福祉科では、福祉の現場で活躍する医師による講義があると記載されておりますが、お呼びする医師は決定しているのでしょうか。

**【参事(兼)高校教育課長】**

湯沢市内の開業医や厚生連の医師等に依頼する予定です。

**【佐藤委員】**

医師会等からの協力も得られているのですね。

**【参事(兼)高校教育課長】**

事前に説明し、講師等の派遣についてお願いしております。

**【佐藤委員】**

生産技術科については、高校卒業後に直ちに就職するよりも就職が有利になるなどのメリットはあるのでしょうか。

**【参事(兼)高校教育課長】**

湯沢翔北高等学校に専攻科を設置する背景として、誘致企業からの話ですが、県南にはリーダー的な技術者が少ないと言われていることがあります。そのため高校卒業程度にプラスアルファの技術を有する人材を育成することを目的としております。

また、専攻科卒業生は短大卒業程度の待遇で就職することとなります。



地元企業にアンケート調査を行ったところ、9社のうち6社は専攻科卒業生の採用を検討するとの回答を得ております。

**【佐藤委員】**

保健体育課のカウントダウンイベントについて、震災により延期となったそうですが、他県でも同様のイベントは行われているのでしょうか。

**【保健体育課長】**

イベントは各県が独自のタイミングで行っています。

**【田中委員】**

専攻科の講師は新たに採用するのでしょうか。

**【参事(兼)高校教育課長】**

基礎科目については高校の教員で対応可能な部分もあります。専門科目については、適任者に依頼する形になります。

**【田中委員】**

具体的には目処が立っている状態なのでしょうか。

**【参事(兼)高校教育課長】**

専攻科の支援協議会で関係団体を含めて協議しているので、大卒では確保できる見込みです。また、生産技術科の卒業生は県立大学本荘キャンパスにあるシステム科学技術学部編入できるような仕組みを作るとともに、単位の互換制度についても検討しております。

**【北林委員長】**

専攻科における高大連携の取組は喜ばしく思っています。

生産技術科の特色として長期インターンシップを実施するとありますが、どの程度の期間をインターンシップにあてるのか、受け入れ企業の目処はついているのか説明してください。

**【参事(兼)高校教育課長】**

インターンシップは1年次に2単位予定しており、時間に換算すると700時間程度となります。2年次には10単位を予定しておりますが、こちらは当該企業に就職することを前提としたインターンシップとなる見込みです。

受け入れ企業については、生徒の就職希望と併せて受け入れ先に打診することとなりますが、現在のところ増田JUKIや秋田オリエント精密、TDK羽後や並木精密宝石などが手を挙げてくださっております。

**【北林委員長】**

長期インターンシップは重要な鍵になるので、力を入れて取り組んでいただきたいと思います。予定された案件は以上ですが、他に何かありましたら発言願います。

## 【参事(兼)高校教育課長】

高校教育課から2点ご報告いたします。

1つ目は県立男鹿海洋高等学校の臨時職員の逮捕事案についてです。

宮城県石巻署によりまずと逮捕されたのは男鹿海洋高等学校に勤務する船川丸臨時乗務員辺見勝美です。臨時乗務員は6月4日午前1時頃、折りたたみ式のナイフ1本を所持していたことから銃刀法違反の容疑で逮捕されたものです。不審者がいるとの住民からの通報を受けて、警察が取り調べた結果、逮捕されました。

当日、本人は石巻市に帰省中でした。詳しい状況については警察による調査が進められており、本人とはまだ面会できておりません。県をあげて教職員の不祥事の根絶に向けている中の事件であり、残念でなりません。信頼の回復に向けて再発防止に全力を尽くします。

2つ目は5月8日にあった、高校生による新生児遺棄致傷事件を受けた高校教育課の対応についてご報告いたします。

5月8日の逮捕を受け、5月9日には命の大切さと性に関する指導の徹底について文書による通知を行うとともに、保健体育課ではステップアップ性に関する指導の充実を活用した指導方法の充実について各校に配付し、指導したところです。

高校教育課ではこのような全体に対する指導を一つの柱とし、二つ目の柱として当該校へ指導主事を派遣し、詳しく調査をすることにより、今後の指導の教訓とすることとしています。

また、三つ目の柱として長期的な視点に立って命の大切さに関する指導については、より実感を伴った学習活動を充実させていくことが重要であると認識しております。

各柱について詳細を説明すると、一つ目の全体へ対する指導では、先ほど説明した事項の他に、5月16日から18日にかけて県北、中央、県南地区で開催された校長会の場で、命の大切さ、性の指導、生徒指導を徹底するよう指導するとともに、今回の事案で指導上課題となったことを4点に整理し、各校で改善へ向けた話し合いとしてほしいと問題提起したところです。

具体的な課題として1点目は、当該校で生徒の変化に気づけなかったことから、生徒の変化に気づくための改善策について検討するというものです。2点目は、生徒が悩みを抱えていながら、誰にも相談できなかったというのをうけ、生徒及び保護者から相談しやすい校内体制の構築に努めるというものです。3点目は、命の大切さと性に関する指導において、生徒に響く指導はどうかというもので、これまでの取組で充分か慎重に検討するというものです。4点目は、家庭や地域の連携について、現状がどうかを認識し課題を検討するというものです。以上4点については全ての学校が自己点検し改善することとしています。

なお、7月1日に開催される生徒指導主事研究協議会においてもこのテーマについて協議し、7月21日までに各校の取組を報告することとしております。

2つ目の当該校への調査による、課題の洗い出しについてですが、現段階で教訓化すべき事項としては、気になる生徒がいる場合、担任だけではなく複数の教員が別々の面談を行うべきであるということです。というのは、当該女子生徒の担任は他校から転勤してきた教員ですが、2年次に欠席が増えた際に個人面談を行ったのですが、クラスになじめないため欠席しているという説明をしておりました。担任は保護者やカウンセラーと連絡を取りながら、対応することとしましたが、この際に学年主任など複数の教員が面談をしていれば、生徒の変化に気づけたかもしれませぬ。以上のことから複数の視点で面談することが効果的であると考えています。

また、当該女子生徒は学校内では相談できない状況にあったため、校内の相談体制を充実させるとともに、秋田県内の主な電話相談一覧を掲示するなどして、生徒が孤立しないような取組を行うこととしています。このほかにも今回の事件を精査、検討し整理した上で今後の教育活動に

生かして参ります。

3つ目の心に響く指導という点に関しては、心に響く指導を行うため、実感を伴う学習活動をより充実させていくべきだと認識しております。最近の子どもは小さい頃からパソコンに触れ、バーチャルな感覚で命を軽く捉えてしまいがちです。そのため、家庭科の時間に乳幼児と触れ合うなど実感を伴った学習活動を充実させていきたいと考えています。

**【北林委員長】**

その他、他になければ、以上で本日の会議を閉じます。